

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870105727
法人名	株式会社セラピー
事業所名	グループホームしらゆり
所在地	松山市鷹ノ子町154番地1
自己評価作成日	平成28年8月9日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年8月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>ホームの方針 明るく良いホーム創りを目指す為、穏やかで健やかな生活が送れるよう利用者中心の介護をおこなう。 笑顔で挨拶の励行 利用者とのコミュニケーションをとり、信頼関係を築く。（尊敬の気持ちでさせて頂くをモットーに、言葉遣いや態度には十分気を付け、笑顔で優しく接すること） 利用者が出来ることは、時間がかかってもやっていただく。 グループホームは居宅です。基本的には、利用者が自由に生活して頂き、その見守りを行う。 散歩等、極力屋外にもお連れしてください。 利用者虐待・身体拘束の禁止。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>2ヶ月に1度、個別の便りと、時には管理者手書きの手紙を添えて、利用者の暮らしぶりを報告している。便りを見て、利用者に会いたくなり、来訪する家族もある。又、便りに運営推進会議の案内を掲載したところ、家族参加につながった。参加した家族からは「会議で要望を話せるし、いろいろなことが分かる」との声がある。 週に4回、火曜日・水曜日・金曜日・土曜日の午前、午後、夕方に入浴できるよう準備している。希望に沿って支援しており、毎回入浴する利用者もある。重度の方も、湯船に浸かれるよう支援している。前回の外部評価後、家族と一緒に入浴介助を行ったような事例がある。家族が背中を流したり拭いたり、入浴後の水分補給等の介助も行えるよう支援した。利用者、家族はたいへん喜ばれたようだ。</p>
--

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム しらゆり

(ユニット名) ユニット B

記入者(管理者)

氏名 草場 ひろみ

評価完了日 28 年 8月 9日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) ホーム内の共有空間に理念を掲げ、ミーティングの時に理念に触れるようにしている。	
			(外部評価) 理念は、玄関や廊下に掲示している。法人代表者は、理念に沿って作成した「ホームの方針」を、職員採用時やミーティング時に話している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地方祭の時に、町内会にお祝いし、御輿・獅子舞に来て頂き、利用者と一緒に楽しんだり、敬老会にも参加することができた。	
			(外部評価) 地域の敬老会に数名の利用者が参加できるよう支援している。近隣の方が野菜や花を持参して、利用者と談笑する等の交流がある。地域住民から介護についての相談があれば、相談支援を行っている。琴と尺八のコンサートやシルバー合唱団、ハンドマッサージ等、地域のボランティアを受け入れており、利用者の楽しみとなっている。事業所の農園は地域の方が世話して、ソラマメやカボチャ等を作ってくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域資源マップづくりに協力したり、随時、地域の方々から認知症の相談も受けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、外部評価についての報告や話し合いを行い、意見を頂いたり、町内の行事予定等情報を頂いたりして、サービスの向上に活かしている。	
			(外部評価)	利用者と家族、町内会長、民生委員、地域包括支援センター担当者等が参加しており、事業所の現状や行事報告等を行っている。又、「高齢者虐待・身体拘束」「防災及び非常災害時対応」等について資料を基に説明したり、利用者と食事を共にする機会を設けている。家族から「リハビリを継続してほしい」「ホームページを開設して状況を掲載してほしい」等の要望があり、それぞれに対応、検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価)	運営上問題が生じた場合、その都度担当者に相談し、快く相談に応じて頂き、課題解決を図っている。	
			(外部評価)	運営推進会議に、市社会福祉協議会、権利擁護センターの担当者を講師に招き「成年後見制度」について講演してもらった。毎年、地域の中学生の職場体験学習を受け入れ、交流を継続している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	ミーティングにて、「身体拘束禁止の対象となる具体的な行為」を説明し、職員が拘束しないケアを実施している。	
			(外部評価)	身体拘束の勉強会は、内部で年に1~2度実施している。「一人で外に出ようとする利用者」が各ユニットに1名ずつおり、危険性の軽減、及び安全性を優先して、ユニットの入り口を施錠している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ミーティング等において、高齢者虐待防止法に関する理解浸透や、遵守に向けた取り組みを行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見人制度、地域福祉擁護事業についてミーティングで説明し、パンフレットを常備し、全職員が必要な時に活用できるよう支援している。運営推進会議で社会福祉協議会の権利擁護センターの方に講師をお願いし、勉強する機会を持ち、理解を深めるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約を結んだり解約する際、内容を十分説明し、理解、納得を図っている。 契約後、1部お渡しし、再度不明な点がある場合は連絡頂き、再度説明し、理解、納得頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者、家族の意見等については、利用者中心の観点から重要視し、早急に解消し、運営に反映させている。誕生会のご案内や運営推進会議での昼食会にお誘いをし、意見や苦情を表せる機会を作っている。 (外部評価) 2ヶ月に1度、個別の便りと、時には管理者手書きの手紙を添えて、利用者の暮らしぶりを報告している。便りを見て、利用者に会いたくなり、来訪する家族もある。又、便りに運営推進会議の案内を掲載したところ、家族参加につながった。参加した家族からは「会議で要望を話せるし、いろいろなことが分かる」との声がある。金銭収支は毎月、送付しており、職員の入れ替わりがあれば、家族の来訪時に紹介をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングの時や日々の生活の中で、職員の意見や提案を聞くようにしている。	今後もさらに、職員の定着やチームワーク作りに向けた取り組みをすすめてほしい。又、職員のケア向上を目指して、積極的に研修を重ねる等、利用者や家族の希望に沿った支援が継続できるよう取り組んでほしい。
			(外部評価) ミーティングは、ユニット毎に開催し、会議の資料等は全職員に配布する等、内容を伝達する仕組みがある。法人代表者は、折にふれて職員に声をかける等して言いやすい環境づくりに努めている。「職員の確保と質の向上、良好なチームワークの構築」を今後の課題と捉えていた。外部研修は、受講希望者を募り年間で2～3名の職員が参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 運営者は、頻繁に現場に来ており、利用者や職員と過ごしたり職員の業務や悩みを把握している。 また、職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は職員が向上心を持って働けるよう職務評価を行ったり、職場内で活かせる環境づくりに努めている。	
			(外部評価)	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の情報を提供し、事業所以外で開催される研修には参加費会社負担で、なるべく多くの職員が受講できるよう、シフトの調整を行い、研修報告は毎月のミーティングで発表するようにしている。	
			(外部評価)	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) グループホーム交流会（久米・小野地区）への参加を募り、サービスの質の向上を目指している。	
			(外部評価)	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人から困っている事、不安な事、求めている事等を受け止め、不安を取り除く努力を充分行う事により、信頼関係を築くよう努めている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族が求めている事を理解し、事業所としてはどのような対応が出来るか、事前に話し合いをしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時、本人や家族の思い、状況等を確認し、必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 支援する側、支援される側という意識を持たず、できるだけお互いが協働しながら、和やかな生活ができるように場面作りや声かけをしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 職員は、家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や、気づきの情報の共用に努め、本人と一緒に支える為に家族と同じ思いで支援している事を伝えている。また、家族には、できるだけご来訪頂くようお願いしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 知人、友人等に会いに行ったり、訪問してもらう等、繋がりを継続できる支援をしている。 (外部評価) 目の不自由な利用者は、入居前から利用しているガイドヘルパーの引率で、馴染みの会合に継続して参加できるよう支援している。利用者の希望で、以前住んでいた場所にドライブしたことがある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係性について情報連携し、全ての職員が共用できるようにしている。また、心身の状態や気分、感情で日々変化する事もあるので、注意深く見守るようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスの利用者が終了しても、遊びに来てもらう等、継続的な付き合いが出来るように心がけている。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ●日々のかかわりの中で、声かけ・把握に努めている。困難な場合は、家族等から情報を得るようにしている。また、入浴介助等をする場合、本人納得の上で行うようにしている。 (外部評価) センター方式のアセスメントシート等を使用し、生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと等の情報を収集して、1年ごとに見直し思いや意向の把握に取り組んでいる。料理や編み物、百人一首、読書等、利用者一人ひとりの得意分野を發揮できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に、本人、家族から情報収集や、生活の中で得た情報からその人らしい生活ができるように支えている。但し、情報が少なく、最近の事しか分かっていない利用者もいる。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの生活リズムをバイタルチェック等で把握し、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	ご本人や家族の思いや意見を聞き、スタッフ全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行い、介護計画の作成を行っている。	
			(外部評価)		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	利用者の日々の様子やケアに、実践結果、気づきや工夫を介護記録やホーム日誌に記入し、職員間で情報を共有している。 また、結果を基に、介護計画の見直し、評価を実施している。	
			(外部評価)		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	本人・家族の状況に応じて、通院等、必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。	
			(外部評価)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、警察・消防等の連携を取っている。 また、民生委員と意見交換する機会を設けている。	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 協力医の他、利用者からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、家族と協力し、通院・介護を行ったり、訪問診療に来てもらっており、複数の医療機関と関係を密に結んでいる。	
			(外部評価) 利用者全員のかかりつけ医である協力医療機関の医師の往診が週に1度ある。医師と相談しながら、現在、12～13名が睡眠導入剤を使用しており、日中の活動量を増やす取り組みとともに、医師と相談して、減薬したり、薬の種類を変えたりしながら支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 正看護師について、北上クリニックと契約し、週1回訪問頂き、全利用者の健康管理や、状態変化に応じた、適切な受診や看護を受けられるよう、支援している。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) ●入院時、本人の情報を医療期間に提供し、職員が見舞うようにして、回復状況など、速やかな退院支援に結び付けている。 ●医師と話す機会を持ち、ホームでの対応が可能な段階で、なるべく早くに退院できるようアプローチしている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ホームで対応出来る最大のケアについて説明を行っている。状態の変化がある毎に、家族・医師を交えて話し合いを行い、支援につなげている。	
			(外部評価) 昨年1年間に、3名の利用者の看取りを支援した。職員は、利用者の故郷の歌を耳元で歌ったり、好物だったものを用意する等、家族とも協力しながら支援した。ほとんどの家族は「事業所で最期まで」と希望しており、利用者の思いは、「私の姿と気持ちシート」の「ターミナル、死後についての願い」の欄に記入している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルは作成しているが、全ての職員が年1回の応急手当の勉強会(実技を含む)の実施が出来ていない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力を得て、避難経路の確認、火災時の通報の仕方等の訓練指導を定期的に行っている。 消火器等、設備点検を定期的に行っている。 年に2回以上、避難訓練を行っている。 鷹子町消防団に協力依頼済である。 H23年2月 スプリンクラー設置済である。 (外部評価) 避難訓練の際には、消防署から「職員の役割分担を明確にするように」とのアドバイスがあった。運営推進会議時に、防災について話し合ったり、熊本地震を機に、地域の消防団に協力を再依頼する等、地域との連携に取り組んでいる。1週間程度の食糧を備蓄している。事業所避難訓練への地域住民の参加、校区防災訓練への職員の参加は、今後の取り組みとなっている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ミーティングの折に、職員の意識向上を図ると共に、日々の係わり方(言葉使いや態度には充分気をつけ、笑顔で優しく接すること)をリーダーが点検し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。 また、意識の継続の為に目標カードを作成し、毎日振り返りを行い、さりげない適切な援助を心掛けている。 (外部評価) 今年から、管理者が発案した「目標カード」を個々に作成し、利用者を尊重した言葉かけや支援が実践できるよう取り組んでいる。カードの表には目標を、裏には毎日○×で自己チェックできるようになっている。法人代表者、管理者が8月の目標を「利用者様の言葉や表情を大切に受け取って適切な援助をさせていただきます」と決めていた。調査訪問時、居室で昼食をとる寝たきりの利用者には、職員は、一口食べ終わるごとにいいえに声をかけて支援していた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 職員側で決めた事を押し付ける様な事はせず、利用者に声かけをし、複数の選択肢を提案して、一人ひとりの利用者が自分で決める場面を作っている。上手に言葉に出来ない利用者でも、表情などを大切に受け取り、気持ちを汲んで接するようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 基本的な1日の流れはあるが、1人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重して、出来るだけ個別性のある支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 着替えは基本的に本人の意向で決めており、見守りや支援が必要な時に手伝うようにしている。理美容は、訪問してもらったり、望む店に行かれてたりしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の準備等、利用者が出来る事は手伝って頂き、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事が出来るよう、雰囲気作りをしている。 (外部評価) 利用者の希望も取り入れながら、1週間交代で職員が献立を立て手作りしている。利用者それぞれに、下ごしらえや食器洗い、味見、下膳等ができるよう支援している。調査訪問時、一気に食べてしまう利用者には、数回に分けて器に盛って支援していた。職員も共に食卓を囲み、同じものを食べながら介助していた。利用者の中には、使い慣れたお茶碗と湯呑、お箸等を使用している方があった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 入居者の水分摂取量、残食量を毎日把握し、個人情報にも記載している。 利用者個人個人についての食事の栄養面についても、主治医の指示で、1500~2000calとしている。 毎月体重測定を行い、参考にしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後、歯磨きや義歯の洗浄・うがいの支援を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			時間や態度を把握し、トイレ誘導を行い、排泄を促している。	
			(外部評価)	
			排泄パターンを把握して、トイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			野菜を多く取り入れた食事や、水分摂取を促し、散歩・体操等身体を動かすよう、働きかけを行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			男女・曜日で分けているが、利用者のその日の希望を確認し、曜日に関係なく利用者の希望で入浴頂いている。	
			(外部評価)	
			週に4回、火曜日・水曜日・金曜日・土曜日の午前、午後、夕方に入浴できるよう準備している。希望に沿って支援しており、毎回入浴する利用者もある。重度の方も、湯船に浸かれるよう支援している。前回の外部評価後、家族と一緒に入浴介助を行ったような事例がある。家族が背中を流したり拭いたり、入浴後の水分補給等の介助も行えるよう支援した。利用者、家族はたいへん喜ばれたようだ。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			●日中の活動を促し、生活のリズムを整えるように努めている。 ●不眠傾向にあり、医師に指示を仰ぎ眠剤を服用している方には、日中の活動の妨げになっていないか、確認を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋は個別の管理ケースに保管し、その日の担当職員が服薬時、利用者に手渡しし、服薬確認をしてサインをしている。処方箋があれば、申し送りや連絡ノートで全職員が分かるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ●1人ひとりの力を発揮してもらえよう、お願いできそうな仕事をして頂き、感謝の言葉を伝えるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ●本人の希望に応じて、日常的に散歩や買い物に出掛け、季節を肌で感じられる様に支援している。 ●ユニット毎に外出・外出行事を行うようにしている。 (外部評価) 毎月1回、外出行事として、お花見や回転ずし、スーパー等に出かけられるよう支援している。広告やカタログを見て、買い物に出かけたり、注文できるよう支援している。近々、駐車場で花火大会を行う予定である。	今後さらに、利用者が地域とつながりを持って暮らし続けられるよう、地域の中に個々の楽しみを作っていけるような取り組みもすすめていってほしい。職員は「人手不足ではあるものの、気分転換を兼ねて、日常的にちょっとそこまで出かける機会を作りたい」と話していた。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 事務所で管理している人についての買い物等の場合、職員が支払いを行っている。 自分で持っている方は、自分で支払いされている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望により、自宅や昔からの友人に電話をし、いつでも話ができるようにしたり、手紙のやり取りをされるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 台所、食堂、居間は1フロアで、食事の支度が目で見え、匂い、音等体感できるようにしている。フロアの飾り付けや、花を活けたりして居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
			(外部評価) 事業所前の水田には稲が実り、玄関前の壁に沿う花壇には、季節の花が咲いていた。居間の壁には、利用者で作ったひまわりの貼り絵や塗り絵、9月に予定されているボランティアの歌謡ショーのプログラム等が掲示されていた。調査訪問時、新聞を読みながら気になる部分を「読書控え」と表書きしたノートに、きれいな字で写していた利用者も見られた。管理者は「利用者がくつろげるよう、ソファの配置を工夫したい」と話していた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、ダイニングがゆったりしており、ダイニングの椅子や、ソファ等で自由に過ごせる居場所を確保している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた家具の持込を自由にしており、本人や家族の希望を取り入れたり、本人のお気に入りの写真やカレンダーを貼ったりし、居心地良く過ごせる空間となっている。	
			(外部評価) 居室には、タンスやテレビ、机、仏壇、アルバム等が持ち込まれ、家族の写真やぬいぐるみ、お孫さんが折った折り紙等が飾られていた。ジグソーパズルや読書を楽しむ方もある。年間のカレンダーには、家族の面会日に印が付けられていた。シーツや枕カバーは、基本的に1週間に1度交換している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 本人にとって「何が分かりにくいのか」、「どうしたら本人の力でやって頂けるのか」を追求し、状況に合わせて環境整備に努めている。	